

質 問

横田肥育センターの 再稼働計画は

村尾明利 議員

町長 繁殖牛増頭対策を優先して
繁殖センターとして再稼働する



問 人・農地プランの①現在の進捗状況について②策定過程で本町農業の将来に対し、何が見えど様な対応が明らかになったか③今後のスケジュールは、

答 舟木農業振興課課長
2月末現在、7地区のプランを作成し、2地区を残している。3月末には第一次のプラン作成が9地区整う予定である。農業従事者の63%が60代以上、後継者の確保は、全体の28%約1/4の現状だ。集落営農組織の立ち上げや担い手の育成などから、それぞれ既存組織のステップアップが急務で最終、経理の一元化をはかった協業型の特定農業団体もしくは法人化を指導していく。26年度以

降、随時地区プランを追加変更し、全体地区計画の見直しを図る。

問 JA雲南による和牛肥育センター事業は、業績不振による大幅な縮小方針が示され、横田肥育センターは廃止された。

答 雲南農業振興協議会
その後、JA雲南と雲南圏域1市2町による抜本的改革方針が練られ、新年度からセンターの再稼働が行なわれるようだがその計画について②センター再稼働の受け皿は、農業公社としているが、これの労務対応は充分な計画が整ったか③JA雲南と雲南圏域1市2町それぞれの責任分担と連携については、

問 近年、稲作の作業体系は、高性能な機械化や除草剤などの高度な農業開発によって作業能率が飛躍的に向上した。今や畦畔・法面の草刈り作業が最も手の掛かる作業となっている。これの軽減にグラウンドカバープランツ(地被植物)の活用が有効だ。圃場整備事業等にセットで組み入れられないか。センチビードグラスで管理の手間とコ



名声復活なるか！繁殖センターとして再稼働に期待

持拡大につなげる計画だ。横田肥育センター再稼働の受け皿は町農業公社で対応するが労務対策には充分な準備を行いたい。経営に対する責任分担は雲南農業推進協議会で充分検討する。

問 近年、稲作の作業体系は、高性能な機械化や除草剤などの高度な農業開発によって作業能率が飛躍的に向上した。今や畦畔・法面の草刈り作業が最も手の掛かる作業となっている。これの軽減にグラウンドカバープランツ(地被植物)の活用が有効だ。圃場整備事業等にセットで組み入れられないか。センチビードグラスで管理の手間とコストを大幅に減らすとともにカメムシ被害も減った事例が報告されている。農業基盤整備事業の一環として積極的に推進できないか。

答 若月農林土木課長
現状、補助対象としては、採用は難しい。

問 現行の農業基盤整備の補助要綱では対象外のようなが、大変重要な提案に思いますので、国に対し要望していく。

答 「教育のデジタル化」を見据えたタブレット端末の活用が各地の学校で進みつつある。中でも英語教育には極めて効果的とされているが、本町も先行的にタブレット端末を授業に取り入れ、英語教育に力を入れる考えは、

問 本町では、25年度から八川小学校がバナソニック教育財団の助成事業でタブレット端末5台を導入し、授業に既に活用している。26年度予算において特別支援教育に導入し、過剰指導において活用研究を行い、これら効果を検証しながら、今後の導入を検討する。